取扱説明書

Hello from the Tone Farm

弊社のアンプを選択されたあなたは、とても賢明なプレーヤーであり、且つ、直感力に優れた方です。それと同時に、アンプ・メーカーとしての我々に、絶大なる信頼を頂いているという事ですね。我々は、その期待を重く受け止めています。このアンプを選択して購入されたという事は、このアンプがあなたの音楽を表現する体の一部になったという事であり、同時に、あなたはメサ・ファミリーの一員になったのです。メサ・ファミリーへようこそ！

我々の目指すゴールは、決してあなたを幻滅させる事はありません。偉大なアンプのオーナーになった今、メサの先人達が築き上げてきた様々な真空管アンプの伝統、そしてその上に新たに積み上げられた技術の全てを、あなたは享受出来るのです。これから、このアンプがあなたの音楽制作を触発し、多くの喜びを与えてくれる事は間違いありません。それは、これまで培ってきたあなたの奥底に眠る音楽に対する意欲や情熱を導きだす事であり、我々はその手助けが出来ればと願っています。…私達の新たなる友へ捧げます。

使用上のご注意

この説明書を読んで下さい。

この説明書をなくさない様に保管して下さい。

注意事項を必ず読んでからお使い下さい。

安全事項にも従って下さい。

水の近くで当製品を使用しないで下さい。

汚れた時は乾いた布で拭いて下さい。

換気口を塞がないで下さい。説明書に従ってインストールして下さい。

暖房機器や、他のアンプなど、熱を発する機器の近くに置かないで下さい。無理やり、形の違うコンセントに挿さないで下さい。有極プラグは片方のブレードが幅広くなっています。アース付プラグは２つのブレードの他にアース端子も付いています。アースは安全の為のものです。自宅のコンセントに差し込めなかった場合、電力会社に相談して下さい。

電源ケーブルを踏んだり、曲げたりしないで下さい。

落雷の恐れがある時や、長時間使用しない時は電源ケーブルを外して下さい。

修理が必要な時は専門家に依頼して下さい。ケーブルがダメージを受けたり、本体が傷ついたり、濡れたり、落として壊れたりした場合、修理に出して下さい。

換気の為に本体の後ろに必ず10センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口の上に新聞、テーブルクロスやカーテン、といった物を置かないで下さい。

ロウソクや火が付くような物を本体の近くに置かないで下さい。

濡れている物も本体の近くに置かないようにして下さい。

注意：安全のため、本体を雨や湿気に晒さないで下さい。

なるべくコンセントの近くに設置して下さい。

注意：必ず適切な接続をしてからアンプを操作して下さい。そうしないとアンプが故障する可能性があります。

直射日光や高い湿度は避けるようにして下さい。

必ずアースを接続して下さい。

解体したり、ヒューズやチューブを交換したりする前に必ず電源ケーブルをコンセントから外して下さい。ヒューズを入れ替える時は、必ず同じタイプのヒューズを使って下さい

。動作中にチューブに直接触れないで下さい。

子供に触らせないで下さい。

故障を避けるため、ケーブルなどを接続する前に電源を切って下さい。

汚れを取るのに溶剤を使用しないで下さい。

必ず本体の裏に表示されている条件を満たすAC電源を使用して下さい。輸出モデルは各国の電圧に合わせてあります。お住まいの規定に従って電源に接続して下さい。

大きな音が出ますので、スピーカーに耳を近づけないで下さい。

Mesa/Boogie（メサ／ブギー）アンプはプロ用の機材なので、規定に従って扱って下さい。

上記の取り扱い注意事項と安全管理事項を必ず読んで下さい！

目次

取扱説明書

概要:

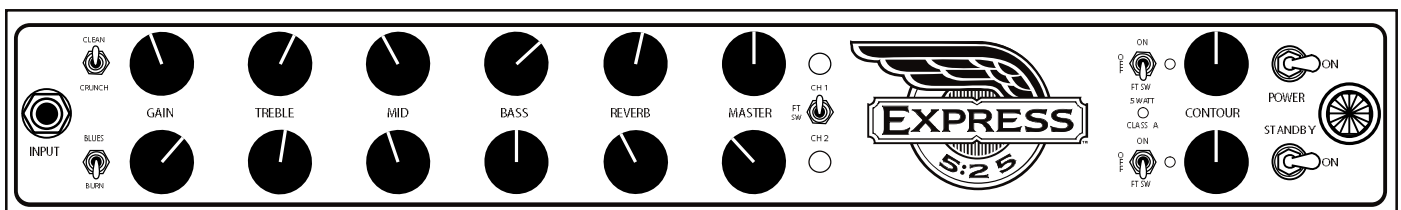
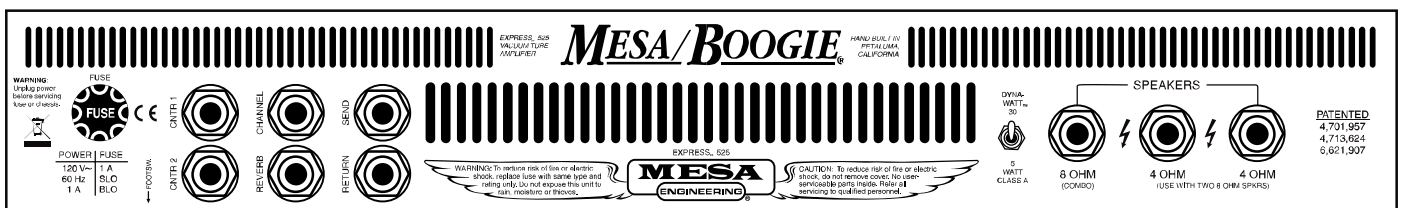
この度はExpress（エクスプレス）モデルをお買い求めいただき誠にありがとうございます、そしてメサ・ファミリーへようこそ！このアンプは、２２年間に渡って発展を続けてきたメサの回路技術の集大成でもあります。音質、レイアウト、直感的な操作性、どれをとってもトップクラスのレベルである事は間違いありません。

Express（エクスプレス）モデルは、文字通り表現する楽器です。ギターを演奏する、その音を最終的に出力するのはアンプです。アンプによって、トーンや音作りの方法は様々です。プレーヤーが実際に触れる楽器同様、手作りの全真空管アンプを、我々はここカリフォルニアのペタルマからお届けします。

Express（エクスプレス）モデルは２機種とも、同様の多様途なトーン・パックのプリアンプを使用しています。このプリアンプは独立した２つのチャンネルを持ち、各チャンネルにはさらに個別のモードが２つずつあり、それをフット・スイッチで切り替える事も出来ます。チャンネル１は、ロー・ゲインの柔らかいCLEAN（クリーン）サウンドと、ミッド・ゲインのパーカッシブなCRUNCH（クランチ）サウンドで、リズム・ギターのサウンドをカバーしています。チャンネル２は、チャンネル１とは異なるミッド・ゲインのBLUES（ブルース）サウンドと、ハイ・ゲインの高次倍音を豊富に含んだBURN（バーン）サウンドを網羅しています。この２つのモードは、爆発するようなソロ・サウンドに向いています。

この様に対照的な特徴を持つ２つのチャンネルをうまく使いこなす事で、様々なジャンルの音楽に対応する事が出来ます。R&Bを基本とするプレーヤーは、チャンネル１のCLEAN（クリーン）モードやチャンネル２の BLUES（ブルース）モードを選択すれば良いでしょうし、ロック、メタル、パンクを基本とするプレーヤーなら、CRUNCH（クランチ）や BURN（バーン）を選択すれば良いでしょう。チャンネルを切り替える、あるいはチャンネルの中でモードを切り替えるだけで、クラシックなサウンドからモダンなサウンドまで、サウンド・キャラクターを変幻自在に操る事が出来ます。

これら４つの強力なモードに加えて、各チャンネルにはフロント・パネルのスイッチ、あるいはフット・スイッチで切り替え可能な、CONTOUR（コントゥアー）機能があります。この機能は、ダイナミックなイコライザーであり、つまみを回す事で、サウンドが劇的に変化します。このイコライザーには、３８年を超える歴史の中で培ってきた、理想的な周波数特性のカーブを採用しています。伝統的なメサのグラフィック・イコライザーの "V"カーブを再現し、それを１つのつまみでコントロール出来る様にした画期的な機能が、このCONTOUR（コントゥアー）なのです。

フロントパネル：Express 5:25

バックパネル：Express 5:25

概要：（続き）

REVERB（リバーブ）は、このアンプに全真空管の豊かな響きと空間の表現をもたらします。この機能は、各チャンネルに個別に装備されていますので、チャンネル毎に異なる設定をする事が出来ます。また、リバーブのオン／オフはフット・スイッチで切り替える事も可能です。

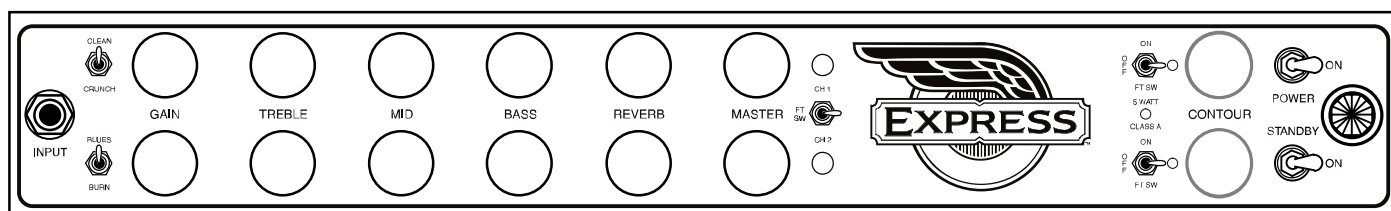
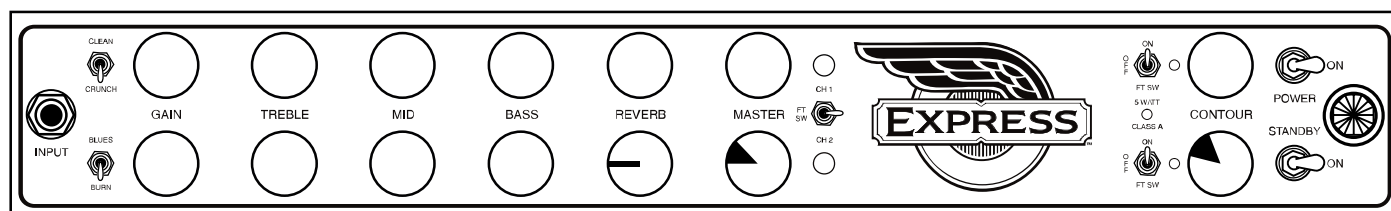
EFFECTS LOOP（エフェクト・ループ）に外部エフェクト・プロセッサーを接続する事で、音作りの幅をさらに広げる事が出来ます。Express（エクスプレス）アンプには、ラック・マウント・タイプを含めた、あらゆるエフェクト・プロセッサーを接続する事が出来ます。

Express（エクスプレス）モデルの２機種、９ピンのミニチュア・パワー管EL84を２基搭載した２５ワットの5:25と、大出力の５極パワー管6L6を２基搭載した５０ワットの5:50は、２機種ともメサが特許を有するデュオ・クラスのパワー切り替え機能を持っています。この価値ある機能により、それぞれの機種は独特のサウンド・キャラクターを持つ事が出来るのです。各機種はそれぞれ、フル・パワー・モード(5:25 は25W、5:50は50W)に於いては、プッシュプルのクラスABで動作し、ヘッドルームの大きなパンチのあるサウンドを生み出します。パワー切り替えを５ワットに切り替えると、１基の真空管がクラスAシングルエンドで動作し、柔らかいクリップ・サウンドを生み出します。我々のたゆまぬ努力の成果は特許に守られていると同時に、プレーヤーの笑顔に支えられているといっても過言ではありません。

デュオ・クラスのパワー切り替え機能があることで、２つの特徴的なサウンド・キャラクターを持つ事が出来る訳ですし、さらにそれを切り替える事が出来るのです。Express（エクスプレス）5:25には、これもメサが特許を有するDyna-Watt（ダイナ・ワット）機能も搭載しています。Dyna-Watt（ダイナ・ワット）は、弾けるエネルギーを溜め込んでから一定のカーブで放出する事により、大きなアンプでしか得られなかった太くてパンチのあるサウンドを、5:25のように軽量でクリップ能力の低い低出力のアンプで実現したのです。

これで、Express（エクスプレス）の全体像が把握出来た事でしょう。ここからは、いよいよ各機能について詳しく説明していきます。まずは、次のサンプル設定を使用して、２つの異なるサウンドを確認する事から始めましょう。

簡単レシピ

Sweet Clean / Howling Blues

Big Crunch / Burning Lead

フロントパネル: コントロールと特性

モード

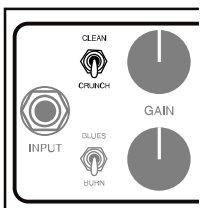
チャンネル1

CLEAN（クリーン）：

これは、Express（エクスプレス）の４つのモードの中で最もロー・ゲインであり、美しく弾けるような、暖かいクリーン・コード・サウンドを生み出します。CLEAN（クリーン）モードは、全てのモードの中で最もダイナミック・レンジが広く、他のモードと比べて、信号のコンプレッションのかかり具合が最も少なくなっています。それは、このモードのゲイン構造が伝統的な手法に基づいているからです。これにより、多くのプレーヤーは、Express（エクスプレス）に往年のアンプのようなレスポンスを感じる事でしょう。ハイ・ゲインの設定にすると、このモードは懐かしのリード・サウンドを生み出します。オーバードライブが手放せないプレーヤーには、このモードよりも他の３つのモード、特にBLUES（ブルース）モードをお勧めします。CLEAN（クリーン）モードは広いダイナミック・レンジを必要とするプレーヤーに向いています。

GAIN（ゲイン）コントロールの特性は、低い設定（９時半から１１時）ではとても明るいサウンドに、１２時から２時の間では、暖かさと豊かさが加わるものの、クリーンさが残るサウンドに、２時半から４時半の範囲では、柔らかいビンテージ・サウンドに、５時半の最大値に設定すると、完全なオーバードライブ・サウンドになる様に調整されています。このサウンド・インプレッションの記述は、あくまでも目安です。実際には、プレー・スタイル、ギター、ピックアップ、弦の種類等により、サウンドのニュアンスは変わってきます。

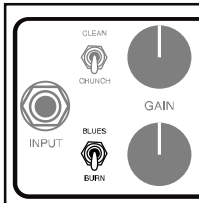
CRUNCH（クランチ）：

このモードは、ハイ・ゲインのリズム・サウンドに合うサウンドを生み出します。このモードのゲインは、CLEAN（クリーン）モードのゲインよりも少し多くなっています。このモードでの音作りは、ダイナミック・レンジを広く使う事が出来ます。このモードでGAIN（ゲイン）コントロールを低め（９時から１２時）に設定すると、CLEAN（クリーン）モードのクリーン・サウンドとは少し異なるクリーン・サウンドを生み出す事が出来ます。具体的には、中音域が少しアグレッシブで、高音域が弾けたサウンドになります。

12時から2時半の間では、クラシック・ロック・リズム・サウンドになります。ハムバッカー・ピックアップとマホガニー・ボディーのギターでは、その特徴がより顕著になり、オーバードライブが掛かった乾いたサウンドになります。この時、まだ完全には飽和していません。GAIN（ゲイン）コントロールを、２時半から最大値（５時半）に設定すると飽和状態に近づき、太く、クリーミーなサウンドになっていきます。この範囲は、ソロ・サウンドに向いています。豊富なゲインを使っていながらも、タイトさとレスポンスを失うことはありません。

CRUNCH（クランチ）モードでは、是非CONTOUR（コントゥアー）機能を使用してみて下さい。この組み合わせから生み出されるサウンドに驚かれる事でしょう。GAIN（ゲイン）コントロールを４時にしたら、CONTOUR（コントゥアー）を１２時位というのを目安にしてください。実際には、プレー・スタイル、ギター、ピックアップ、弦の種類等により、サウンドのニュアンスは変わってきます。

チャンネル2

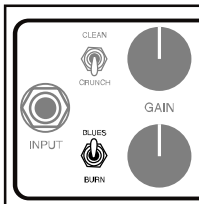
BLUES（ブルース）：

チャンネル２は、GAIN（ゲイン）コントロールを低い設定値にすると、リズム・サウンド向きになりますが、このモードでは特に単音のソロ・サウンドに重きを置いています。BLUES（ブルース）は、チャンネル２の２つモードでは低いゲインになります。ゲインのレベルでは、CLEAN（クリーン）モードとCRUNCH（クランチ）モードの間です。提供出来るサウンドの幅は広く、懐かしのクラシック・サウンドから、暖かみのあるクリーン・サウンド、柔らかいクリップ・サウンド、そして吠えるようなリード・サウンドまで多岐にわたります。

その理由は、メディアム・ゲイン・リードの回路構成にあります。このモードでは、GAIN（ゲイン）コントロールを低い設定値にしても、CLEAN（クリーン）モードより暖かみがあり太いサウンドを生み出す事が出来ます。ですから、BLUES（ブルース）でクリーン・サウンドの設定をしたい場合は、チャンネル１をCRUNCH（クランチ）モードにしてリード・サウンドが出せる様にしておいて、チャンネル２をBLUES（ブルース）モードでクリーン・サウンドを出すのが良いでしょう。この時、ゲインは低め（９時半）、トレブルを高め（１時半から２時）、そしてミッドは低め（８時から９時半）に設定して下さい。

BLUES（ブルース）モードでCONTOUR（コントゥアー）機能を使用する場合は、低め（９時半から１時）に設定すると良い結果が得られます。これよりも高い設定にすると、ミッドが落ち込んだEQカーブのCONTOUR（コントゥアー）が極端になってしまい、ブルージーなソロ・サウンドに合わなくなってしまいます。しかし、一方でこのEQカーブは、柔らかくて弾けるようなクリーン・サウンドを生み出すこともできるので、単音の太いサウンドが欲しいときには向いているといえるでしょう。

デュオ・クラスの５ワット・クラスAとBLUES（ブルース）モードの組み合わせも試してみて下さい。低いボリュームのかっこ良いブルース・サウンドが聴けます。シングルエンド・ワイヤリングがサウンドに甘さを加えてくれるので、より完璧なブルース・サウンドになります。

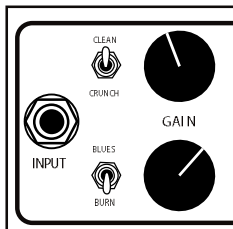
BURN（バーン）：

これは、Express（エクスプレス）の中で最もハイ・ゲインのモードです。このモードは、チャンネル２をリード・サウンドのモードとして最も特徴付けています。概要の項でも触れた様に、２２年以上にも渡って進化し続けてきたこの回路は、うねるような倍音の川へとギターを誘います。そして新しいソロ・ギタリストとしてハイ・ゲインの洗礼を受けたあなたは、音の輪郭がシャープでタイトなサウンド、BURN（バーン）の虜になってしまうことでしょう。

このモードでゲイン設定を低いレベル（８時半から９時半）にしたときと、BLUES（ブルース）モードでゲイン設定を高くしたときのサウンド・キャラクターはオーバーラップしますが、このモードの方が少し太いサウンドなので、かっこ良いブルースのメロディーを弾くには最適でしょう。ゲイン設定を中位（９時45分から２時）にすると、驚くべきロック・サウンドになります。この領域は最も音楽的であり、ゲインを少し回すだけで音の立ち上がりもサスティーンも大きく変化しますので、ハイ・ゲイン・サウンドを多様途に使用出来ます。このチャンネルでさらに上の領域（２時１５分から５時半）にすると、最もメサらしいサウンドが炸裂します。音の繋がり、そして伸びが滑らかなBURN（バーン）は、３８年前にマーリン・カウンティーの山裾で作りはじめたハイ・ゲイン・アンプの集大成です。

このモードに於けるCONTOUR（コントゥアー）機能ほど、Express（エクスプレス）を端的に表現するものは無いといえるでしょう。CONTOUR（コントゥアー）機能は、使い勝手が良く、しかも驚くべきゲイン・サウンドを生み出します。CONTOUR（コントゥアー）を低め（８時半から１１時）にして、ゲインも低めの設定にすると、中音域の単音ソロ・サウンドに最適な音になります。CONTOUR（コントゥアー）を高め（１１時半から５時半）にして、ゲインも高めの設定にすると、メサのDual Rectifier（デュアル・レクティフィア）並の攻撃的なサウンドになります。

フロントパネル: コントロールと特性（続き）

GAIN（ゲイン）：

全真空管アンプの中でもハイ・ゲイン回路を搭載したアンプにおいて、GAIN（ゲイン）コントロールは最も強力なコントローラーです。このコントローラーは、各チャンネルに於けるゲインの量をコントロールする一方、プリアンプの最初のステージ（最初の真空管）のゲインをここで調整するため、トーンはある程度決まってしまいます。

一般的には、GAIN（ゲイン）コントロールを低い設定（１２時未満）にすると、歪みの少ない、クリーンで明るく、ダイナミックなサウンドになります。GAIN（ゲイン）コントロールを大きくしていくと、サウンドは太く、暖かみが出て、ピークが柔らかくなっていきます。また、真空管でコンプレッションが掛かるので歪み成分が増えてきます。これは、チャンネルやモードに限らず全般的にいえる事です。

もう一つ音作りに於けるシンプルなガイドラインとしては; GAIN（ゲイン）コントロールを上げるときは、BASS（バス）コントロールを下げるという事です。これを守る事で、サウンドのタイトさを失ったり、音の立ち上がりの輪郭がぼやけるのを防ぐ事が出来ます。

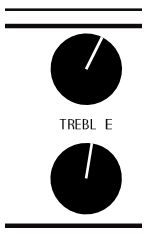
ですから例えば、チャンネル１のCRUNCH（クランチ）モードで、GAIN（ゲイン）コントロールを最大値（５時半）にして、リズム・サウンドにしたい場合は、BASS（バス）コントロールを１０時半位に押さえる事で、サウンドのタイトさをキープする事が出来ます。チャンネル２のBLUES（ブルース）モードで、もう少し柔軟性のある例を挙げてみましょう。GAIN（ゲイン）コントロールを、ほど良く（１時から２時）にした場合は、BASS（バス）コントロールを先程の例よりも少し大きめ（１１時から１２時）にしても大丈夫です。これは、GAIN（ゲイン）コントロールの設定が先程よりも低い設定になっているからです。

ノート: 大きなゲインを得る方法の一つとして、CONTOUR（コントゥアー）機能があります。この機能はプリアンプの回路の中でも後段にあり、音を膨らます事無く低音域を強調する事が出来ます。この時同時に高音域も強調されますが、これはTREBLE（トレブル）コントロールで減衰させる事が出来ます。

内部のゲイン構造はモードによって異なりますので、GAIN（ゲイン）コントロールとBASS（バス）コントロールのバランスに注意して下さい。モードの選択とこのバランスによってトーンは決定されます。

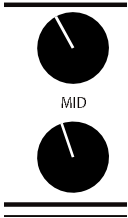
ノート: 真空管のハウリング・トラブルを避ける為に、GAIN（ゲイン）コントロールとTREBLE（トレブル）コントロールを同時に極端な設定にしない様に心がけて下さい。どちらか片方を高い設定にしたら、もう一方は低い設定にして下さい。

TREBLE（トレブル）：

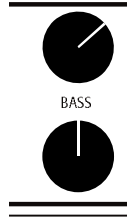
ほとんどの真空管ギター・アンプ（Express（エクスプレス）両方のチャンネルを含む）において、TREBLE（トレブル）コントロールは、ゲインの次に効果的なコントローラーといえるでしょう。その理由は、トーン・コントロールの信号経路で最初に通るという事です。信号はその後、ミドル、バスと流れていきます。ですから、３バンドの中でも、TREBLE（トレブル）コントロールの設定はとても大切です。Express（エクスプレス）のトーン・コントロールは、ほとんどがTREBLE（トレブル）で行われ、その後、MIDDLE （ミッド） BASS （バス）の順に流れていきます。

トレブルには明らかにスイート・スポット（効果が高いポイント）があります。それは、中位の領域（１１時から１時半）です。そして、TREBLE（トレブル）と他の２つのトーン・コントロールのバランスが大切であるという事も覚えておいて下さい

フロントパネル: コントロールと特性（続き）

MID（中域）:

MID（中域）コントロールは、サウンドの中域の周波数帯を、どの程度強調するかを調整します。このコントロールは、トレブルほど劇的な効果は望めませんが、Express（エクスプレス）での音作りには欠かせないコントローラーです。大きな変化ではなく、サウンドが柔らかく感じられるか、固く感じられるかといったニュアンスをコントロールします。

MIDDLE（ミドル）コントロールを低め（７時から１１時）に設定すると、中域が少なくむしろ低域が少し強調された感じになり、パンチの無い、コンプレッションのかかったサウンドになります。MIDDLE（ミドル）コントロールを少し強め（１１時半から１時半）にすると、丸みのあるサウンドになり、中域の音の立ち上がりが素早くなります。MIDDLE（ミドル）コントロールをこれよりも上の領域（２時から５時）にすると、ゲインが大きくなり、音の輪郭が強調されます。これにより、サウンドは太くなり、コンプレッションがかかった感じはやや少なくなります。また、このコントローラーは、出力の小さなピックアップの音量を補正したり、ピッキングの強さによる、サウンドの変化を調整するのに向いています

BASS（バス）:

新しいExpress（エクスプレス）の BASS（バス）コントロールは、どちらのチャンネルでも同じ動作をし、低音域の量を決定します。しかし、実際の効き具合はチャンネル毎に変化します。MIDDLE（ミドル）コントロールの時と同様に、信号はTREBLE（トレブル）コントロールを通った後に流れて来ますので、TREBLE（トレブル）コントロールの設定が高いと、BASS（バス）とMIDDLE（ミドル）コントロールの効果は少なくなってしまいます。反対にTREBLE（トレブル）コントロールの設定が低いと、BASS（バス）とMIDDLE（ミドル）コントロールの効果は大きくなります。

３つのトーン・コントロールで、最もバランスのとれたサウンドやパワーを生み出す為には、まず、TREBLE（トレブル）コントロールを中位に設定する事から始めて下さい。これにより、それぞれのトーン・コントローラーが本来の働きをする事が出来る様になります。

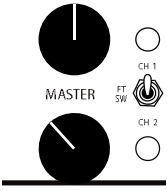
ノート: Express（エクスプレス）のBASS（バス）コントロールは、どちらのチャンネルでも強力な威力を発揮します。適切な手順を踏む事で、簡単にトーンのバランスを整えて微妙なニュアンスを出す事が出来ます。これはチャンネル２に於いて、ドライブ回路でハイ・ゲインのリード・サウンドを出している時に、特に顕著になります。基本的に次のルールを守る様にして下さい。; GAIN（ゲイン）を上げたら BASS（バス）を絞る。この手順を守れば、サウンドのバランスも良くなりますし、音の立ち上がりをタイトに、ダイナミックに、そしてピッキングに対する感度を上げる事が出来ます。

REVERB（リバーブ）:

新しいExpress（エクスプレス）アンプには、豊かで自然な響きの全真空管リバーブ回路が搭載されています。REVERB（リバーブ）コントロールは、つまみを回すだけでリバーブの量をコントロールする事が出来ます。REVERB（リバーブ）コントロールの設定を極端にする事で、アンプのサウンド・キャラクターを際立たせる事が出来ます。

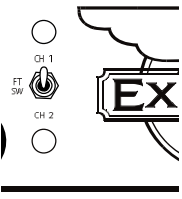
ノート: ハイ・ゲイン且つトレブルも上がっている場合は、REVERB（リバーブ）コントロールは控えめの設定にして下さい。そうしないと、真空管のハウリング・トラブルを引き起こす可能性があります。

フロントパネル: コントロールと特性（続き）

MASTER（マスター）: このコントローラーは、プリアンプの最終ステージの出力レベルをコントロールします。そして、ここでコントロールされたレベルで、ドライバー・ステージやエフェクト・ループに送られます。MASTER （マスター）コントロールは、チャンネル毎に独立していますので、各チャンネルは、互いになんの影響を受ける事も無く、それぞれの出力音量を設定する事が出来ます。MASTER （マスター）コントロールは、ロー・ゲイン・サウンドを大きなボリュームで鳴らす事も、ハイ・ゲイン・サウンドを小さな音量で鳴らす事も出来る、幅広い能力を備えています。

MASTER （マスター）コントロールは、広いコントロール・レンジを持っていますが、その中でも、特に微妙なコントロールが効く範囲は、９時から２時の間です。出来る限りこの範囲で調整した方が、エフェクト・ループを使用する場合も、より良い結果が得られるでしょう。

ノート: MASTER （マスター）コントロールは、エフェクト・ループへの送りのレベルもコントロールしているので、これを極端に高い設定にすると、過大な信号がエフェクト・プロセッサーに送られる事になり、結果的に、エフェクト・プロセッサーの入力段でオーバーロードする事になってしまいますので、注意が必要です。

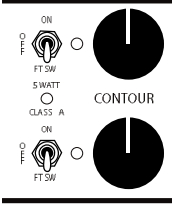
CH 1 / FTSW / CH 2:

この小さなトグル・スイッチでチャンネル、あるいはフットスイッチによる切り替えを選択します。このスイッチがCH 1 (上)になっていると、チャンネル１が有効になり緑色のLEDが点灯します。真ん中の FTSWと表示された位置になっていると、フットスイッチが有効になります。CH 2 (下)になっていると、チャンネル２が有効になり赤いLEDが点灯します。

ノート: チャンネル選択スイッチがFTSW (真ん中)の位置になっていてもフットスイッチが接続されていないと、初期設定ではチャンネル１なります。

ノート: フットスイッチのチャンネル・ボタンのLEDは、フロント・パネルのチャンネル選択スイッチのLEDの２色タイプを使用しています。チャンネル１が選択されると緑になり、チャンネル２が選択されると赤に変わります。

それでは個々のコントローラーについて理解を深めて、あなたの求める音作りを進めていきましょう。

CONTOUR（コントゥアー）:

３段階切り替えのミニ・トグル・スイッチと回転つまみで、このアンプの驚くべき性能を引き出します。それが、自動アサイン／フットスイッチ切り替え可能なCONTOUR（コントゥアー）機能です。これは、一般的なグラフィック・イコライザーを、シンプルな１つのつまみに凝縮した機能です。これにより、ドライ（元の音）にEQの掛かった音をミックスする事が出来ます。プリセットのEQカーブは、メサ・グラフィック・マニアの９０%の支持を集めるクラシック"V"を基本にしています。このEQカーブは、低域と高域がブーストされて中域が減衰している特性を持っています。

ミニ・トグル・スイッチはチャンネル選択スイッチと同様の動作をします。; ON (上) にするとCONTOUR（コントゥアー）機能がオンになり、OFF (真ん中)にするとオフになり、FTSW (下)にするとフットスイッチで切り替えられる様になります。

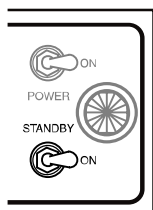
ノート: フットスイッチのCONTOUR（コントゥアー）のLEDは、フロント・パネルのチャンネルCONTOUR（コントゥアー）のLEDの２色タイプを使用しています。チャンネル１が選択されるとCONTOUR（コントゥアー）のLEDは緑になり、チャンネル２が選択されると赤に変わります。

中域の減衰した特性を持つCONTOUR（コントゥアー）機能は、低め（７時半から１１時半）の設定にすると、クリーンでブルージーなサウンドになります。また、チャンネル１、２どちらに於いてもハイ・ゲイン・サウンドを生み出すのに特に効果的です。CONTOUR（コントゥアー）機能を使用すれば、真空管コンプレッション特有の耳障りな鋭さを持ったサウンドになる事もありません。また、CRUNCH（クランチ）やBURN（バーン）モードに於いては、このつまみを１２時位にすると凶暴さが顔を出し始めます。

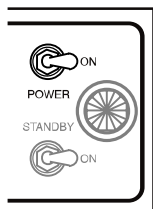
フロントパネル: コントロールと特性（続き）

CONTOUR（コントゥアー）:

３時を超える頃にはCONTOUR（コントゥアー）は最大限になり、EQの効果は信じがたい究極のレベルに達します。タイトでパーカッシブな低域と高次倍音が豊富なサウンドは、プレーヤーに危険な中毒性を感じさせます。CONTOUR（コントゥアー）機能の多様性とパワーは、４つのサウンド・モードの個性と絡み合って、無限の可能性をもたらします。この機能を使いこなして、是非あなたの音作りの幅を広げて下さい。

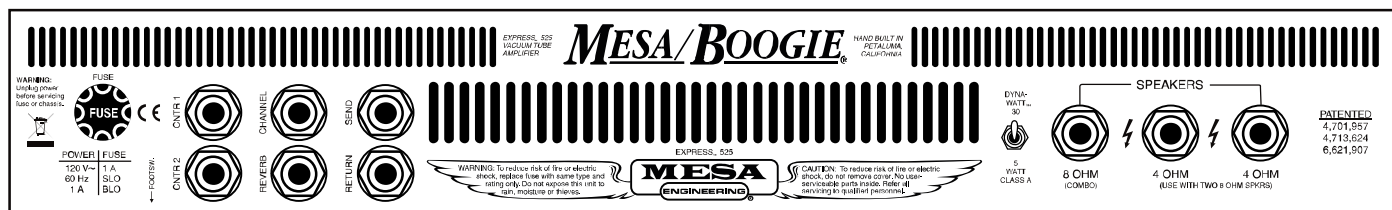
STANDBY（スタンバイ）:

このトグル・スイッチは大変重要な役割を担っています。このスイッチがスタンバイの位置にある時は、真空管はまだ準備段階で、ウォームアップをしています。電源を入れる時は、このスイッチがスタンバイの位置にある事を確認して下さい。

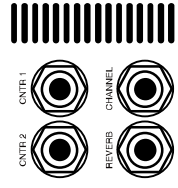
電源を入れてから、最低３０秒の時間をおいてから、このスイッチをオンにする様にして下さい。そうする事で、真空管のトラブルを予防出来ますし、良い音で使用出来る期間が長くなります。

POWER SWITCH（電源スイッチ）:

これは、***Express*** に電源を供給するためのスイッチです。電源のアースがとれている事を確認して下さい（これは、アンプのみならず、演奏者の安全の為にも重要な事です）。また、コンセントに適正な電圧が供給されている事を確認して下さい。

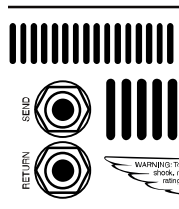
メモ: 電電ケーブルは、絶対に他のものを使用しないで下さい。アンプを損傷したり、火事の原因になる事があります。

それでは次に***Express***（エクスプレス）のリア・パネルを見ていきましょう。

バックパネル: コントロールと特性

外部スイッチ：

この４つのフォーン・ジャックは、２つのチャンネル、リバーブ、コントゥアー、にトリガーを与える機能を持っています。ここにはマスター外部スイッチャーを接続します。このマスター外部スイッチャーを使用することにより、Express（エクスプレス）の内蔵リバーブの設定やチャンネルの設定をリモート・コントロールする事が出来ます。

この端子は、TSフォーン・ケーブルを接続して、そのプラグの"チップ"と"グランド"をショートさせる事で機能させる事も出来ます。その時、スイッチにはチップ・トゥー・グランドの"ラッチ・タイプ"の物を使用して下さい。あとは、各スイッチがどのポートに接続されているか解る様にしておくだけです。

エフェクト・ループ：

Express（エクスプレス）では、外部のエフェクト・プロセッサーを使用する事が出来ます。この回路は、プリアンプとパワー・セクションの間に直列に接続されます。接続は直列（プリアンプの出力がエフェクト・プロセッサーに入力され、その出力がパワー・セクションに戻ります）ですので、エフェクト・プロセッサーのクオリティーがとても重要になります。エフェクト・プロセッサーのクオリティーが低いと、アンプの出力のクオリティーも落ちてしまいます。この端子の入出力インピーダンスは、市場に出回っているほとんどのプロセッサーと互換性がありますので、そんなに高級な製品でなくても大丈夫です。ただし、エフェクト・プロセッサーのクオリティーが出力のクオリティーに大きな影響を与える事は覚えておいて下さい。

ノート: 接続に使用するケーブルは、品質が良くて出来るだけ短い物を選んで下さい。長さの目安は90センチと考えて下さい。９０センチを超えると高域の減衰が始まり、中高域のパンチと高域の明瞭度が落ちてきます。

エフェクト・ループの使用方法;

1) SEND（センド）ジャックとエフェクト・プロセッサーの入力を接続します。

2) RETURN（リターン）ジャックとエフェクト・プロセッサーの出力を接続します。

3) リターン側のケーブルを抜き差しして、レベルが同じになる様にエフェクト・プロセッサーの入出力レベル・アッテネーターを調整します。

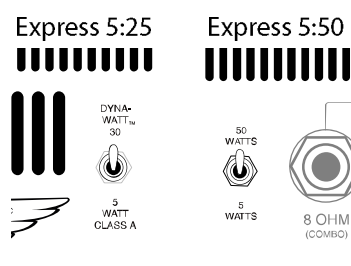
ノート: エフェクト・ループは、プロフェッショナル仕様のラック・マウント・プロセッサーの適正レベルに調整されています。ペダル・タイプのエフェクターを使用される場合は、フロント・パネルの入力端子に直列（楽器の出力をエフェクターに入力して、エフェクターの出力をアンプの入力端子）に接続して下さい。エフェクト・プロセッサーを接続する事で音質が変わる事がありますが、これはある程度仕方の無い事です。それでもエフェクト・プロセッサーを使用するかどうかを判断するしかありません。

バックパネル: コントロールと特性（続き）

パワー選択:

概要の項でも触れた様に、Express（エクスプレス）はメサが特許を有するデュオ・クラスのパワー選択を搭載しています。パワー選択は、２つの異なる動作クラスと異なるワイヤリング構成から選択します。この強力な機能はメサのアンプにしかありません。パワーを選択してボリュームやトーンをコントロールする事で、大きな音量が必要なライブや小さな音量で充分なレコーディング等、様々な状況に対応出来るのです。

フル・パワー:

フル・パワー・モード(Express 5:50は50W、Express 5:25 は25W)は、クラスABのプッシュプルで動作します。この位置（スイッチ上）にすると、ヘッドルームが大きくて、クリーンでタイトなサウンドを生み出します。クラスABは、２基の真空管をプッシュプルで動作させる最も効率的な方法であり、この構成から出力されるサウンドは、中高域のパンチが強調され、低域の明瞭度が高く、高次倍音が綺麗になります。

ノート: 5:25 オーナーの方へ! Express（エクスプレス）は、他の２５ワットのアンプよりも音が大きくダイナミックな印象を持たれた事でしょう。それはメサが特許を有するDyna-Watt（ダイナ・ワット）のおかげなのです。Dyna-Watt（ダイナ・ワット）は、２基のEL84パワー管を構成する技術であり、それにより音の立ち上がりに余裕のある、大きなヘッドルームを獲得しているのです。Dyna-Watt（ダイナ・ワット）は、溜めたパワーを一定の時間をかけて放出する回路により構成されていますので、出力の小さなアンプでもパワフルに感じられるのです。これは、サウンドに柔らかいクリップ、弾けるようなダイナミックさ、そして伸びやかなディケイを与えてくれます。Dyna-Watt（ダイナ・ワット）を搭載したExpress 5:25は、信じられないほど素晴らしいサウンドを提供してくれます。

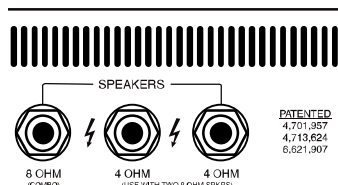
５ワット:

この位置（スイッチ下）にすると、パワー・セクションの構成ががらりと変わります。動作クラスはクラスAに切り替わり、動作効率はかなり下がりますが、スムースで豊かで滑らかな倍音成分のサウンドになり、暖かみのある低音を生み出します。多くのビンテージ・アンプは、この動作クラスを採用しています。ここまではまだメサの特許の基本的な部分しか披露していません。ワイヤリング構成のプッシュ・プルからシングルエンドへの切り替えも重要です。ワイヤリングもシングルエンドになる事により効率は悪くなりますが、サウンドは、偶数次倍音が強調された柔らかい印象になります。第２倍音は、基音の１オクターブ上の音ですので、全ての倍音の中で最も親和性に優れた音になります。そのサウンドは、他には無い、とても薄くオクターバーが掛かったような、甘くふくよかな印象を与えてくれます。プッシュ・プル回路は、波形を半分に分割してそれぞれを増幅する事で、この第２倍音を打ち消してしまいます。その代わりに奇数の第３倍音を発生させ、音を大きく、インパクトを感じさせる要因になっています。それがまた、プッシュ・プル構成のサウンドを特徴付ける事にも繋がっているのです。家やスタジオで小さなアンプのレスポンスが欲しいときは、５ワットの設定にして下さい。このモードは、低いボリュームではゴージャスなクリーン・サウンドを生み出し、強くピッキングすると、かっこ良いクリッピング・サウンドになるという、ビンテージ・アンプそのものです。

この２つのパワー・セクションのトーンと多様性は、他のアンプを圧倒しています。言葉をかえれば２台のアンプが１つのユニットに収まっているような物です。パワーとチャンネルの選択、そして様々なコントローラーでの音作りを始めてしまったら、もう終わりはありません。ただ突き進むのみです!

バックパネル: コントロールと特性（続き）

SPEAKERS（スピーカー）：

このジャックはスピーカー・キャビネット、あるいはExpress （エクスプレス）コンボのスピーカーに接続する出力端子です。８オームが１基と４オームが２基搭載されていますので、ほとんどの一般的な組み合わせには対応可能です。異なるインピーダンスのスピーカーを接続すると音が変わります。基本的には、アンプの出力インピーダンスとスピーカーのインピーダンスを合わせる様にして下さい。しかし、これを合わせない事でサウンドに変化を持たせる事が出来ます。例えば、８オームのスピーカーをアンプの８オーム出力端子に接続して、タイトで太いレスポンスを得ているとします。そこで、そのスピーカーを４オームの出力端子に接続すると、中域の減衰した、しなやかなサウンドになります。Express （エクスプレス）は、インピーダンスのミスマッチに対する許容が大きいので、このように様々な組み合わせにチャレンジして、新しいサウンドを見つけて下さい。

ノート: インピーダンスのミスマッチが低い方（例：４オームの出力に２オームのスピーカーを接続）にいくと、パワー管の寿命を縮める事になりますので気をつけて下さい。

コンボ:

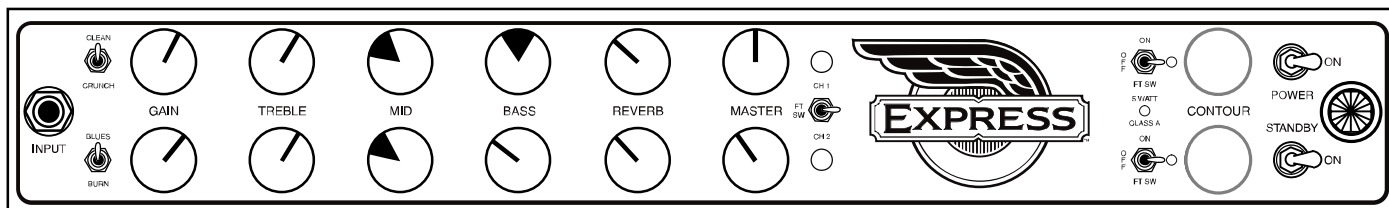
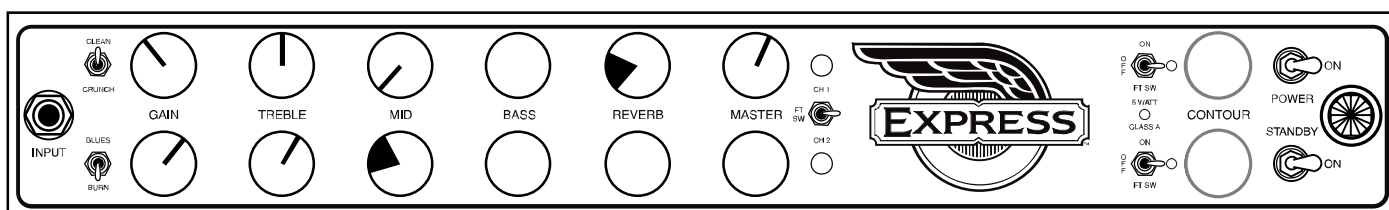
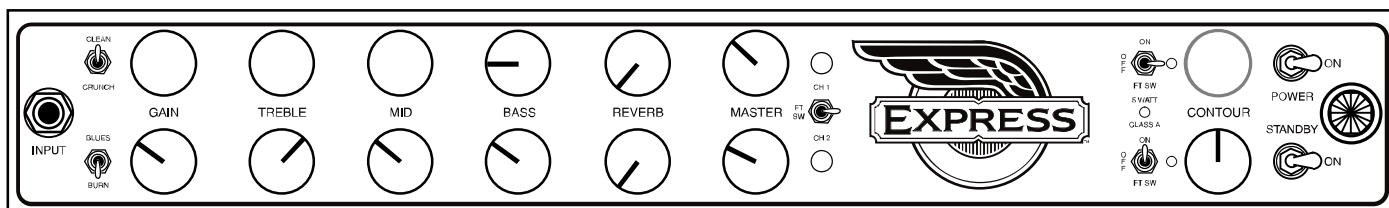
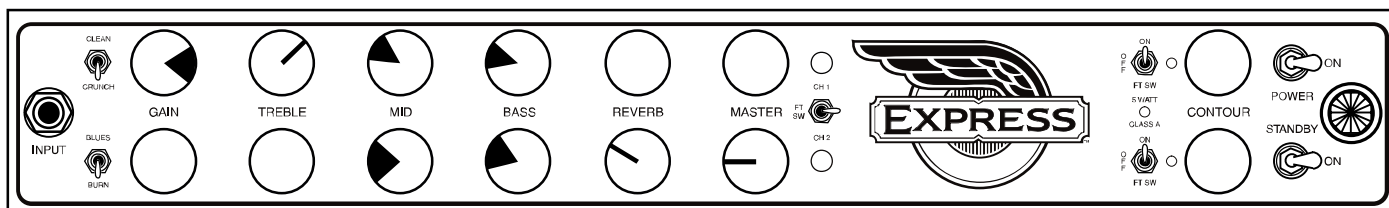
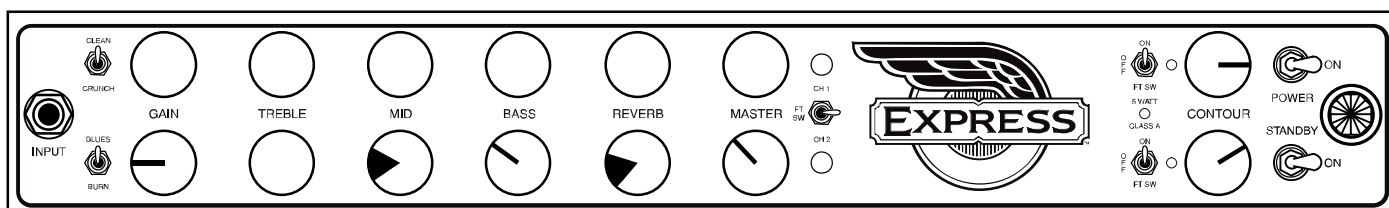
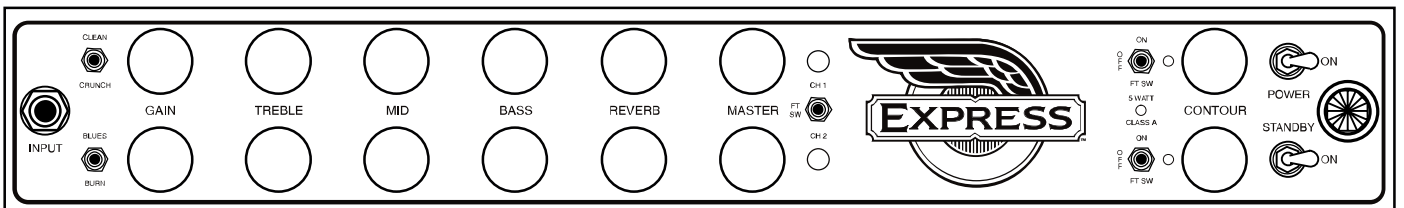
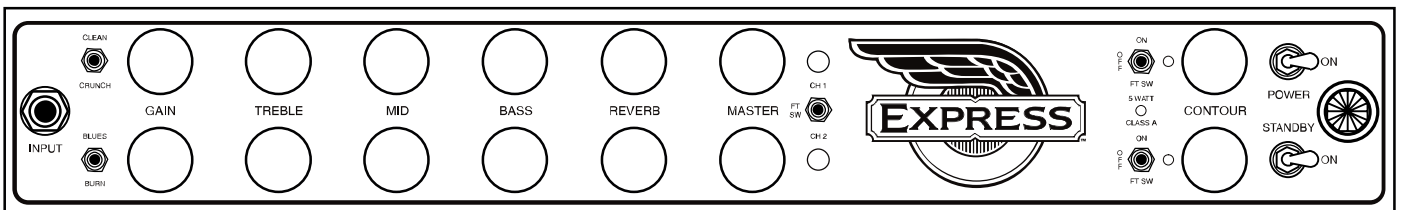
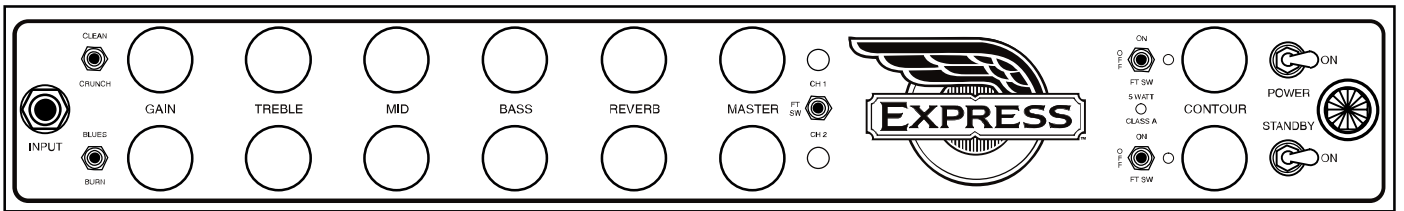
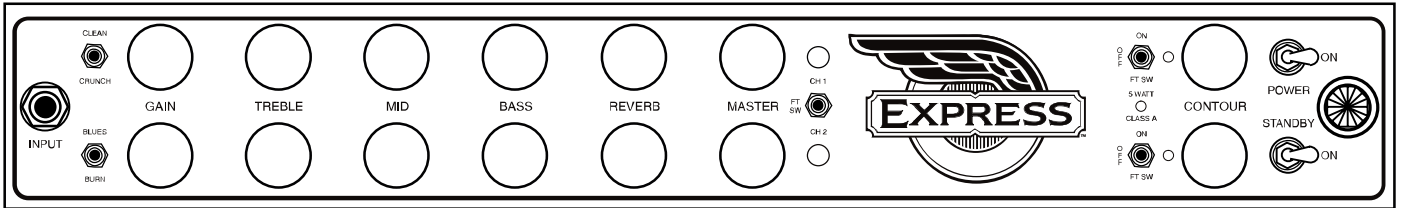
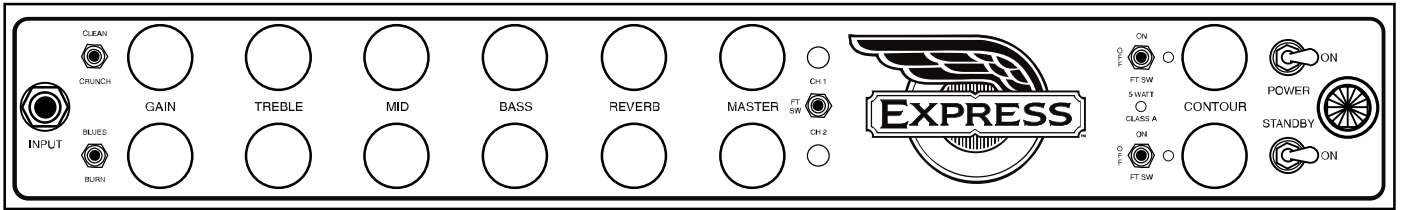
Express（エクスプレス）コンボは、８オームのスピーカーを１台、あるいは１６オームのスピーカーを２台（パラレル接続）使用していますので、どちらもインピーダンスは８オームになります。スピーカー・キャビネットを追加接続する場合は、８オームのスピーカー出力から外して、２台のスピーカー・キャビネットをそれぞれ４オームのジャックに接続すれば、マッチングのとれた状態になります。

ヘッド:

Express（エクスプレス）ヘッドは、ほとんどのスピーカー・エンクロージャーに使用する事が出来ます。メサのキャビネットですと、1x12、2x12、4x12 を８オームで使用可能です。メサ以外のキャビネットを使用する場合は、１６オームのキャビネットであれば８オームの出力端子に接続して下さい。

これでExpress（エクスプレス）の機能と操作に関する説明が一通り終了しました。あとは実際に音を出して感じてインスピレーションを広げて下さい。Express（エクスプレス）は、きっとそのお役に立つ事でしょう。

サンプル・セッティング

Roots Clean / Texas Lead

Spankin' Clean / Vocal Lead

Pushed Clean / Thick Crunch

Tight Crunch / Soaring Lead

Alternative Clean / Huge Crunch

ユーザ・セッティング・テンプレート

スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド:

インピーダンス:

スピーカー接続において最も基本的で重要なのは、位相を正相にする事です。これにより素晴らしい音を出力する事が可能になります。これはそんなに難しい事ではありません。負荷についていくつかの事と、最適な負荷でスピーカーを接続する事を理解すれば良いのです。

MESA/Boogie アンプは、４オームと８オームを扱う事が出来ます。真空管アンプは、４オーム未満でドライブする事はしないで下さい。;これを行うと、出力トランスを損傷する可能性があります。２オームを扱う事の出来る数少ないアンプ（例えばMESA（メサ）のBass 400+）であれば大丈夫です。反対に高い抵抗値（例えば１６オーム等）の場合はアンプを傷める事はありません。

ミス・マッチング:

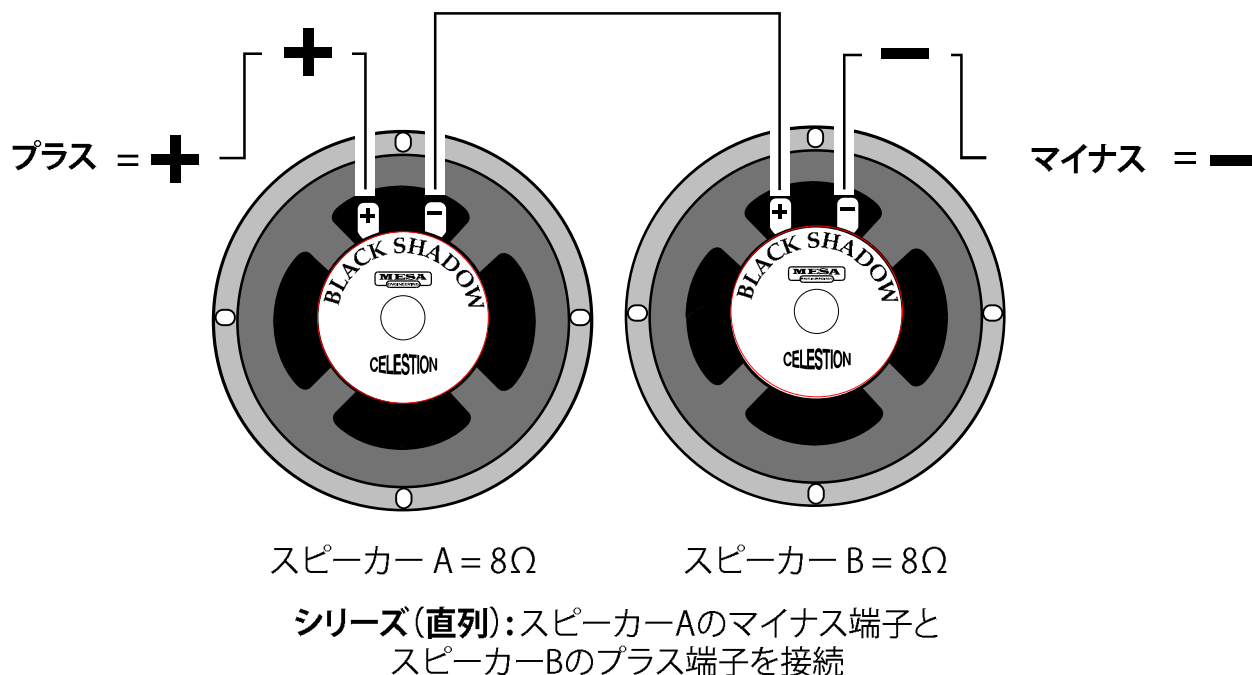
高い抵抗値（例えば８オーム出力を16オームのキャビネットに接続）でドライブすると、少しフィーリングが異なり、レスポンスが際立った感じになります。少しのミス・マッチであれば、トーンが若干暗く、出力とアタックが少し弱く、レスポンスが少し速くなる程度です。スピーカー・キャビネットが複数になると、ミスマッチは選択肢の１つになるほどです。

キャビネット・インピーダンスの算出方法:

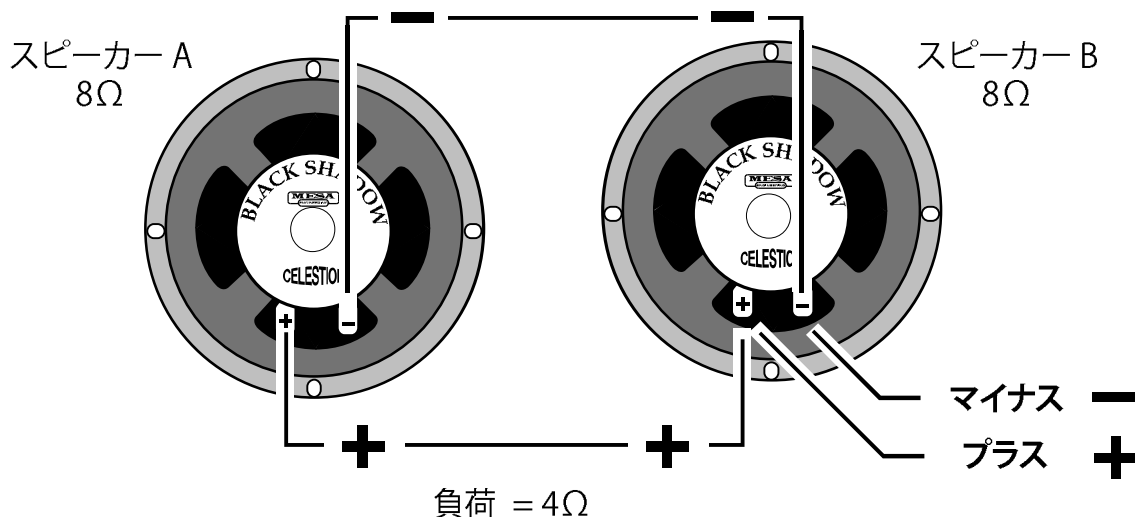
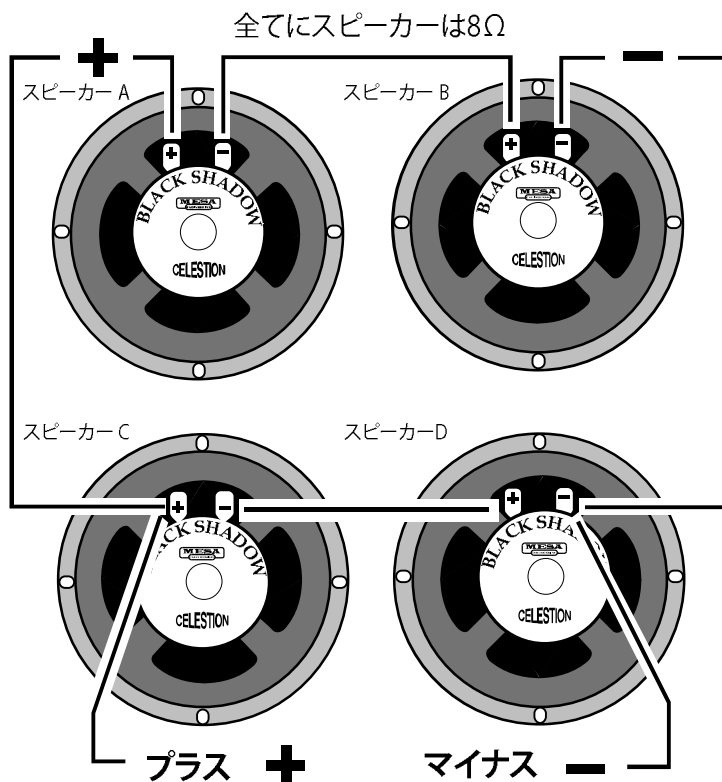
お持ちのスピーカーが１台の場合は、そのスピーカーのインピーダンスとアンプのインピーダンスを合わせて下さい。複数のスピーカーをお持ちの場合は、アンプにかかる負荷を計算しなければなりません。複数のスピーカーの接続方法は次の３種類になります。:

シリーズ（直列）:

スピーカーを直列に接続した場合、それぞれのスピーカーのインピーダンスを単純に加算します。例えば、８オームのスピーカーを２台直列に接続した場合は、16オームになります。

シリーズ（直列）: スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのプラス端子を接続

スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド（続き）：

パラレル（並列）：

スピーカーを並列に接続した場合、スピーカーの抵抗値は下がります。２台の８オーム・スピーカーを並列に接続した場合、負荷は4オームになります。接続するスピーカーが全て同じ抵抗値であれば計算は簡単ですが、異なる抵抗値のスピーカー（例えば、8オームと4オーム、16オームと8オーム等）を並列に接続する場合は、少しややこしくなります。計算式は、それぞれの抵抗値をかけ算した数値を、それぞれの抵抗値を足し算した数値で割ります。例えば８オームと４オームであれば、8×4÷（8＋4）＝2.6666オームになります。パラレル（並列）：スピーカーAのプラス端子とスピーカーBのプラス端子、スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのマイナス端子をそれぞれ接続。

シリーズ（直列）とパラレル（並列）の組み合わせ：

これは、２セットの直列接続したスピーカーを並列に接続する組み合わせです。ここで重要なのは、全てのスピーカーの合成抵抗値が低くなり過ぎてアンプに負担をかけない様にする事です。

スピーカーAのプラス端子とスピーカーCのプラス端子を接続。

スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのプラス端子を接続。次にスピーカーCのマイナス端子とスピーカーDのプラス端子を接続。

そして最後にスピーカーBのマイナス端子とスピーカーDのマイナス端子を接続します。

４台の８オーム・スピーカーをシリーズ・パラレル接続した時の合成抵抗値は、８オームになります。

真空管機能の詳細

V1 A = チャンネル2ゲイン第3段
V1 B = チャンネ1ルゲイン第2段
V2 A = ゲイン第1段
V2 B = ゲイン第1段Cln/第2段O.D.
V3 A = 両チャンネルゲイン第4段
V3 B = FX Return
V4 A & V4 B = ドライバー/フェーズスプリッター
V5 A = リバーブ Return
V5 B = リバーブ Send

Express 5:50 真空管機能表

アンプのバックパネ

真空管機能の詳細

V1 A = チャンネル2ゲイン第3段
V1 B = チャンネ1ルゲイン第2段
V2 A = ゲイン第1段
V2 B = ゲイン第1段Cln/第2段O.D.
V3 A = 両チャンネルゲイン第4段
V3 B = FX Return
V4 A & V4 B = ドライバー/フェーズスプリッター
V5 A = リバーブ Return
V5 B = リバーブ Send

フロントパネル Express 5:25
スイッチ pt#607231
全てのノブ PT# 408015
LED pt#395438
レンズ pt#703330
LED pt# 394251
LED pt#394232
CLEAN
CRUNCH
BLUES
BURN
INPUT
590739
590148
590736
590150
590151
590738
GAIN
TREBLE
MID
BASS
REVERB
MASTER
590739
590738
590737
590739
590151
590148
CH 1
FT SW
CH 2
EXPRESS
5:25
ON
OFF
FT SW
5 WATT
CLASS A
590740
CONTOUR
590740
POWER
STANDBY
ON
ジャック pt#610120
スイッチ pt#607231
LED pt#395735
レンズ pt#703330
スイッチ pt#607233
両スイッチ pt# 607233
LED pt# 394201
両スイッチ pt# 600631
レンズpt# 703782
バルブpt# 703047
ホルダーpt# 703047
バックパネル Express 5:25
MESA/BOOGIE
EXPRESS 525 VACUUM TUBE AMPLIFIER
HAND BUILT IN PETALUMA, CALIFORNIA
WARNING: Unplug power before servicing fuse or chassis.
FUSE
POWER
120 V~
60 Hz
1 A
FOOTSW.
CNTR 1
CNTR 2
CHANNEL
REVERB
SEND
RETURN
EXPRESS 525
MESA ENGINEERING
WARNING: To reduce risk of fire or electric shock, replace fuse with same type and rating only. Do not expose this unit to rain, moisture or thieves.
CAUTION: To reduce risk of fire or electric shock, do not remove cover. No user-serviceable parts inside. Refer all servicing to qualified personnel.
DYNA-WATT 30
5 WATT CLASS A
SPEAKERS
8 OHM (COMBO)
4 OHM
4 OHM (USE WITH TWO 8 OHM SPKRS)
PATENTED
4,701,957
4,713,624
6,621,907
フューズ pt# 795080
ホルダーpt# 790347
ジャック pt# 619357
スイッチ pt#619357
ジャック pt#619356

The Spirit of Art in Technology

正規輸入代理店

株式会社　キョーリツコーポレーション

本社
〒468-0002 名古屋市天白区焼山1丁目813番地
カスタマーサポートセンター
TEL (03)5614-2081 FAX (03)5614-2166
support@kcmusic.jp